

市民環境大学OB会 ニュースレター



第7号 2016年3月17日 発行

戸塚 雲林寺の白梅

「初のOB会懇親会開催！会への参加動機・思いなど多くの意見！」

新年1月21日に今年初めての定例OB会が開催されました。市民環境大学OB会は2011年修了生の方々を中心に発足し、定例会は5年目に入り、今回の1月でちょうど50回を迎えました。当日は16名と多くの方の参加があり、更に会終了後、各自持参した弁当を食べながらの初めての懇親会が行なわれました。

懇親会の中では小倉先生から環境大学スタートのいきさつが述べられ、皆さんに対しどのような気持ちで環境大学やOB会に参加し、また会に対しての持っている期待や思いなどについて問いかけがありました。会員の皆さんからはそれぞれが長い人生の経験談や趣味などの紹介とともに環境大学に参加したいいきさつなど大変活発に話され、また趣味のハーモニカでの曲披露もありました。

OB会活動参加の動機は全体的には会への参加による仲間づくりや自己啓発、また小倉先生の人柄に魅かれて来ているという意見の方も多くありました。懇親会の途中では飯島会長、河原副会長からミカンやお菓子の差し入れもあり、12時から始まった懇親会は大変盛り上がり、終了したのは3時で、非常に貴重で楽しい時間を過ごすことができました。

1月21日の定例OB会において河原さんから雑感ということでOB会盛り上げのための考え方、方法等に関する提案がありました。以下に投稿という形で紹介したいと思います。

投稿

OB会 雑感

河原 鋒男

OB会の話の中で会員が読んだ本の概要とか感想、身近な話題をその人なりにまとめて話したりして発表するのが良いのではと話させて頂きました。今までも多くの皆さんが話題とか読んだ本の感想などを席上出していただいていたのですが、もっと多くの方に参加していただければと感じています。

このところ環境を含めて情報の量と質はその良し悪しは別として、日々の生活の中に大量に入ってきています。小倉先生の講義でも大気のことから生物、植物、陸水海水にと身の回りに関係する話が増えて、どこまで知っていれば良いのかと戸惑うばかりです。自分の視点をしっかり持つことが必要ではないかと思っています。

OB会も今年で5年目を迎えます。身近な環境問題を中心に皆で話し合い、考えていくのは勿論ですが、更に向上心をやしなうて、現在～将来につながっていくとらえ方も大事なことを考えます。身近な環境を考えるに当たっても「ONE FOR ALL、ALL FOR ONE」の心構えで会員が対応して社会に役立っていくOB会にしたいと思います。

ところで、2年前位から友人の勧めで短歌を知る機会に恵まれています。そこで、皆さんもご存じとは思いますが覚えた歌を2～3紹介してみます。

- 多摩川にさらす 手作り さらに 何ぞこの児の こだ かなしき
「多摩川にさらさらと晒す手作り布のように、更に更にどうしてこの娘はこんなにもいとしののだろうか」
万葉集巻14 実践女子大万葉講座より
- 多摩川の 清く 冷たく やわらかき 水のこころを誰に 語らん
岡本かの子 (歌人、作家、画家 岡本太郎の母)
- 明か明かや 明か明か明かや 明か明かや 明か明かや 明か明かの月
京都、母ノ尾 高山寺(鳥獣戯画、わが国初の茶の栽培で有名)の明患上人(鎌倉前期の僧)の歌
月を→(年)と読み替えてOB会の発展にあやかりたいと思います。

OB会 輪読報告 1月、2月のOB会輪読は以下の各2項目でした。

陸水学入門 川と湖を見る・知る・探る 編集：日本陸水学会 発行：地人書館

1月 Topics7 安定同位体に聞く生態系の物語 Topics8 窒素安定同位体が明らかにした富栄養化の歴史

2月 Topics9 森と川と海のつながり Topics10 官民一体となった流域管理(赤谷プロジェクトの挑戦とその波及)

発行：市民環境大学OB会